

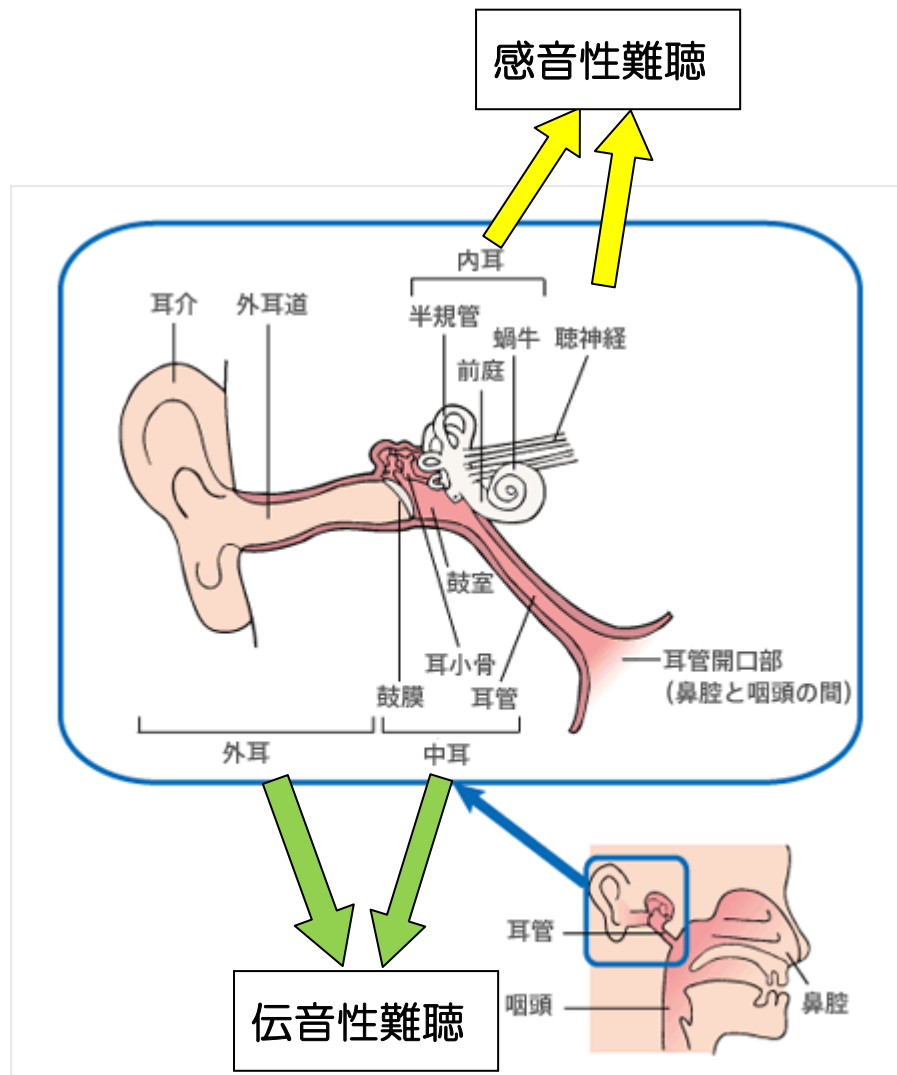


加齢とともに「音が聞こえにくくなった」と感じておられる方も多いと思います。加齢とともにおきる聴力の低下は誰にでも生じる現象ともいえます。加齢による難聴は「老人性難聴」といわれます。

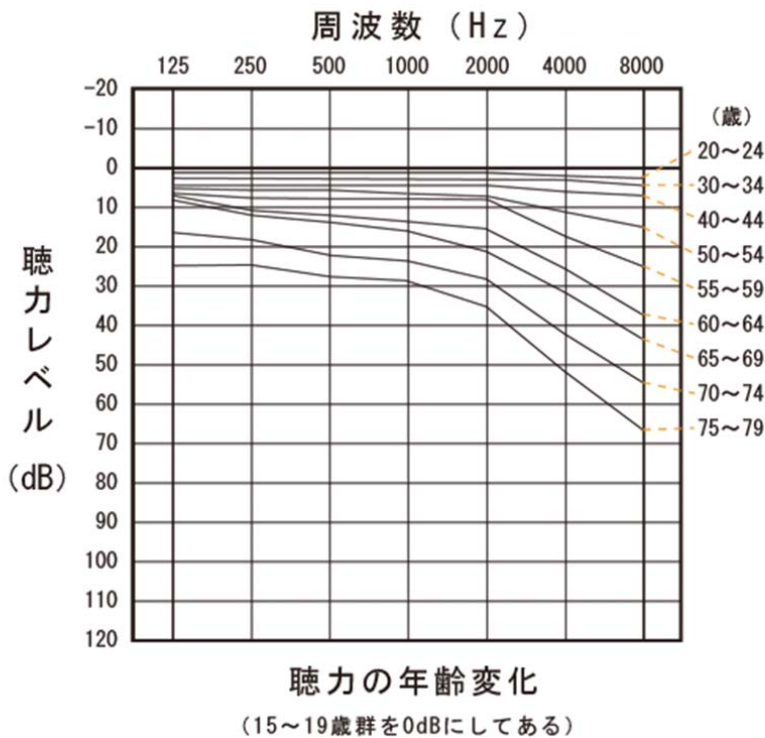
聞こえのしくみ



耳は、外耳、中耳、内耳の3つの部分からなっています。空気の振動である音は、外耳を通して、鼓膜を振動させます。その振動は耳小骨という小さな骨を經由して増強され、内耳に伝達されます。内耳には音を感じる感覚細胞があります。そこで音は分析され感じとり、聴神経を経て脳内の音を感じる中枢である聴覚中枢へ伝達されて処理がおこなわれ、音やことばを理解することができます。難聴は、外耳～聴覚中枢までのどの経路でも生じますが、外耳～中耳までの経路で障害が生じるものを「伝音性難聴」、内耳～聴覚中枢に至るまでの経路で生じるものを「感音性難聴」といいます。



老人性難聴の特徴



耳の組織は加齢によって萎縮や変性が起こり、組織の老化に伴って徐々に難聴も進行していきます。



「さ行」「は行」「か行」などの音の聞き間違いが起こります。

- ①両側の耳に同じように起こる
- ②高い音の方が聞き取りにくくなる高音障害型感音性難聴が生じる
- ③言葉を聞き分ける能力も低下すること
- ④早口の人言葉が聞き取りにくい
- ⑤周囲がうるさいと聞き取れない

言葉を聞いた時に、脳の中の膨大な語彙から必要に応じて取り出して単語や文章として認知します。この時に脳内の様々な部分が活動するといわれています。言葉を聞き分ける能力の低下は脳の老化とも関係しているといわれています。

より良いコミュニケーションのために

聴力の低下を感じたら、聴力検査を受けてみましょう。補聴器が必要かどうかについても検討が必要です。老人性難聴について理解するとともにコミュニケーションを楽しむためには周囲の方の配慮が必要となります。①騒音の少ないところで、②お互いの顔を見ながら、③ゆっくりとはっきり話す、④話す前に声をかける、⑤わかりにくい時は書いて示すなどの工夫をしながら楽しくお話をしていきましょう。

